

災害対応、通院の課題は

玉野高が「探究活動」発表会

高校生の視点で解決策



災害対策や医療といった分野の地域課題を探究し発表する玉野高の3年生

玉野高の3年生が地域をフィールドに防災

や医療、自然科学といったテーマで取り組んできた「探究活動」の発表会が29日、同高で開かれた。豪雨など災害発生時の対応や市民の通院事情など、地域課題を高校生の視点で掘り下げた成果が報告された。

「河川の水害対策」を発表したグループは、2018年の西日本豪雨など近年の水害では逃げ遅れて亡くなった人が多く、中でも高齢者は1人で移動が困難だったり、危険に気付かなかつたりするケースが少なくないと

分析。災害発生時に住んでいる人やお年寄りや民同士で逃げ遅れがなにか確認するのは難しくことから、SNS(会員制交流サイト)を活用して情報共有することを提案した。

「玉野市民と通院」さん(17)は「東児地区のグループでは、医療機関と公共交通について調べた。市中心部に病院が集中しており、公共の足が少ないため郊外の市民が通院しづらいと指摘。足を痛め

ている人やお年寄りは最寄りのバス停まで歩くと困ることが多いことも、タクシーでの通院を保険などで割引く案を示した。

同グループの堀藍人さん(17)は「東児地区から通学しているが、バスの便数が減って困っていたので、通院に利用する人にも影響がでていると思った。解

き取りが中心だった。(内田貴大)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。